

[カバラの基本原則]

[果樹園にある家]

ブネイ・バルーフカバラ教育研究所

[カバラの基本原理]

[果樹円にある家]

最初に、上層の力が存在していて、その中に私達全員が住んでいるということ、

そして私達はそれとは反対の利己的な部分であること。

私達のエゴは過去数千年の間、この世界で進化してきました。

この進化の終末では私達がこの力と一体化しなければならない状況に到達します。

私達は誰か？ これが二番目の原則です

この上層の力は、完全の善で、授与していて、与え続けています。

そして、それは私達を、それとは反対のエゴイストに創造しました。

目的は私達の性質が破壊的で、それより悪いものは無いことを明かさせる地点まで、エゴを私達のなかで進化させるためです

そして、古い外皮から脱したくなるように、その状況を突破したくなり、そして上層の力のようになりたくなくなります。

そうしてカバラの方法論によって「そのようになる」ことが可能になります

三番目の原理は、私達は一つのソウル（魂）である。

一つの願望として、上層の者が創造した一つの利己的な願望、楽しみたいという願望、

そして私達は何千何百万の部分に割れ、粉々になり、個人の魂と呼ばれるようになりました。

それは、この全過程の間に展開するものです。

私達は自分達を是正し、創造主のように成らなくてははいけないのです。

その意味は私達全員、ともに統一しなくてははいけないこと。

魂の全部がともに一つの魂に戻らねばはいけないことです。

本当に私達は利己的に仲が裂けられているので、お互いを嫌悪しています。

そして私達の是正とは、その反対の状態になることです。

エゴが破壊的であること、私達はともに繋がって戻りたいのだと理解すべきなのです。

四番目の原則

現れ始めている現代の破壊的で計り知れないエゴに到達した時、

私達はそれがどれほど本当にひどいかを理解します。

その時、二つの方法があります。

「殴打を受けながら進化する方法」

これは、基本的に今の私達の暮らし方です。

私達が常に苦しみから逃げ回っていることです

どこに逃げればよいか分からなく、ただ自分を傷つけるものから離れていればいい、

または、「カバラの方法論」で、目標を自ら自分の目の前に明らかにすることです。

その中で進化して、ゆえに自分を自分の進化に引付けます。

一番目のほうは、「苦難の道」という進化の道です。

そして二番目の道は、「光の道」といいます。

私達の選択肢はそのどちらかで進化するかで、今に至るまでの人間の進化は選択肢の自由はありませんでした。

私達はただ、「エゴ」が命令したことをしていたのです。

エゴ、DNA、なんと呼ぶかは問題ではありません。

むしろ問題は、今の人々がこの世界以上のものに対する願望を抱いていることです。

彼らはこの世界で見つけられるものでは満たされないのです。

なので、彼らはなぜ自分達が存在しているのかを問い、そしてなぜかは知らないのです。

今や私たちには選択の自由があるのです。 今までしてきた苦難の道を生き続けるか...罰を受けながら。

それが彼らを引付けている目標に向かって進化できるのです。

スピリチュアルな進化の道において、ひとはカバラの知恵を発見したその瞬間から、

カバラの書物をたよりに自分のより正された、そしてより前進した状態を学び始めます。

そして、彼がそれについて読むとき、その人はその前進した状態に引き寄せられ、どんな苦悩も必要なくなります。

むしろ、より前進した状態に絶えず引き寄せられます。

しかしこれには、彼が真のカバラの書物を、正しい指導者のもとで学ぶという条件があります。

現代においての真のカバラの書物は、ゾハールの書、アリ（Ari）とバール・ハスラム（Baal HaSulam）による著述だけです。